

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

新潟県

学校名

上越市立東本町小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・同和学習

時数等

2～6時間

目標・人権教育のねらい

学校生活や身近な実生活の中での差別問題を題材とし、体験等を通して認識を深め、差別をしない・させない・許さないという意欲と社会的技能、自己有用感をはぐくむ。

実施した内容

< 1・2学年で実施した同和学習 >

1学年：「名前を大切に」「見た目でからかわない」「思い込みで決め付けない」
「仲間外しをしない、させない」「男女差別をしない」

2学年：「公平な態度で」「性別による決め付けはしない」「いじめを傍観しない」
「どの仕事も大切」「外見で差別しない」「違いを認め合う」

工夫した点

- 主題に関する児童の実態を事前に把握すること
- 多様な価値観にふれることができ、互いの表情が見えるような学習形態
- 場面絵を提示し、状況や人物の心情を捉えやすくすること
- 人物の気持ちを深く考えるために役割演技を取り入れること
- 終末には、「これからの自分はどのようにしていくか」を考えること
- 学習したことが日常生活で生かされるように、みんなで考えた大切にしたいことを教室に掲示すること

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

学校づくりの合言葉「幸せをつくる」「幸せな学校」を意識した活動

事業成果

価値的・態度的側面：被差別者に共感し、差別に憤っている。

事業開始時：93.3%→事業終了間際：97.2%

- ・場面絵や挿絵を工夫したり、被差別者の気持ちを考える学習内容を取り入れたりすることで、何気ない言動で友達を傷つけてしまうことに気が付いた。

技能的側面：自分の行動を見つめ直している。

事業開始時：68.6%→事業終了間際：85.1%

- ・1、2学年の児童にとって、授業の中で日常の自分の行動を見つめ直すことは難しいと考えた。そのため、事前にアンケートをとったり、日常の場面を想起させたりするなどの工夫を行った。自分の行動と結びつけて考えられる児童はまだ多くはないが、「決め付けない」「誰とでも仲良く遊ぶ」などと考えることはできた。授業で考えたことを日常生活の中で、繰り返し取り上げていくことが有効だった。

知識的側面：自他の人権を守るために何が大切かを理解している。

事業開始時：88.3%→事業終了間際：99%

- ・資料提示の仕方、役割演技、学習の流れや「してはいけないこと」「大切にしたいこと」を明確に板書などの工夫により、ほとんどの児童がねらいに迫る発言や記述をしていた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

新潟県

学校名

上越市立東本町小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

3 学年

時数等

4 時間

目標・人権教育のねらい

視覚障がいがあることで、偏見の目で見られる「ぼく」の気持ちを考えることを通して、障がいの有無にとらわれることなく、共に生きていくために、相手の状況や気持ちを考えた言動をしようとする態度を育てる。

実施した内容

- ①視覚障がいのある方との交流活動（2 時間）
- ②人権教育、同和教育に関する授業（1 時間）
- ③これからのかわり方（1 時間）

工夫した点

- 総合的な学習の時間に、視覚障がいのある方の経験談を聞いたり、ブラインドウォーク体験をしたりする中で、視覚障がいのある方が人に頼らず自分で生活できるように工夫したり、社会や家庭での仕事を果たしたりしながら、生き生きと生活していることを感じる事ができた。
- 授業では、交流した方のメッセージを聞くことで、障がいの有無に関係なく、相手のおもいを考えてかわる大切さに気付く事ができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

総合的な学習の時間に視覚障がいのある方との交流活動を実施した。

事業成果

価値・態度的側面：被差別者に共感し、差別に憤っている

事業開始時：94.2%→事業終了間際：100%

- ・資料は、交流した方のお話を基に自作した。「障がい者は、不便なことはあってもかわいそうではない」ということに気付くことができる内容にしたため、差別に対する憤りというよりは当事者の気持ちを考えて行動することが大切だと考えるようになった。

技能的側面：自分の行動を見つめ直している

事業開始時：71.4%→事業終了間際：82.1%

- ・3学年では、困っている人を助けることは自分にとっての喜びと感じている児童が多い。しかし、今回の学習は「助けてもらうより、自分の力で生活したい」という障がい者のおもいを友達と対話しながら深く考える時間となった。今後の交流における態度を見取っていく。

知識的側面：自他の人権を守るために何が大切かを理解している

事業開始時：83.8%→事業終了間際：88.7%

- ・障がいのある方と交流する前は、「目が見えないから不便でかわいそう」「困っていたら助けたい」と考えていたが、実際に交流すると、障がいがあっても家事や子育てなど、工夫しながら取り組んでいることを知ることができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

新潟県

学校名

上越市立東本町小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6 学年

時数等

1 4 時間

目標・人権教育のねらい

部落差別に関係の深い事象を題材とし、被差別部落の歴史的・社会的な背景を正しく認識させ、部落差別の不当性に気づき、差別に対して憤り、差別解消に向けた実践行動力をはぐくむ。

実施した内容

- ①「ケガレ」と「キヨメ」（資料：春日権現絵巻）
- ②又四郎の悲しみ（DVD東山文化を支えた「差別された人々」）
- ③医学の発展に尽くしてきた人々（蘭学事始め、腑分けばめん絵 等）
- ④渋染め一揆
- ⑤五万日の日延べ
- ⑥水平社宣言、西光万吉の生き方
- ⑦「上越市人権・同和問題に関する市民意識調査」
- ⑧部落差別の当事者であり、差別解消のために活動するAさんに学ぶ

等

工夫した点

遠い昔のことではなく、社会の一員である自分の問題として考えられるように、当事者であるAさんとの出会いを設定した。Aさんには、話をしていただくだけでなく、皮革工芸の講師としてかかわっていただいたり、1年間の学習をとおして自分は差別をなくすためにどのように行動していくのかを伝えたりした。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

5学年時に学習した「と畜の仕事」の学び、修学旅行で訪れた東京都中央卸売市場食肉市場や草加市伝統産業医展示室「ぱりっせ」での学びとの関連を図った。

事業成果

価値・態度的側面：被差別者に共感し、差別に憤っている

事業開始時：96.6%→事業終了間際：100.0%

- ・結婚差別にあったAさん、と畜の仕事をしているBさん、西光万吉、又四郎など、学習では被差別の立場にある人に共感し、その立場で考えたり、話し合ったりした。

技能的側面：自分の行動を見つめ直している

事業開始時：事業開始時76.2%→事業終了間際：83.1%

- ・差別に立ち向かうには、Aさんや水平社を立ち上げた人々のように、勇気や仲間が大切だと考える児童が多かった。そして、「苦手だなという人を遠ざけていた。差別をなくすためには、まず自分が変わろうと思う」「部落差別、と畜の仕事、病気の差別など、知らないことで差別してしまうことある。正しく知って、周囲の人に伝えていく」など、友達や教師、ゲストティーチャーと対話し、自分自身とも対話しながら自分の行動を見つめ直した。

知識的側面：自他の人権を守るために何が大切かを理解している

事業開始時：70%→事業終了間際：98.5%

- ・1学年から人権教育、同和教育を積み重ねている。差別をなくすには、「正しく知ること」「勇気」「仲間」「行動」「うわさや周囲の人に流されない強い心」等が大切であることを理解している。事業開始時の数値が低いのは、部落差別問題についての理解が深まっていなかったためだと考えられる。指導計画を見直していく。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

新潟県

学校名

上越市立東本町小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

5 学年

時数等

3 時間

目標・人権教育のねらい

今も根深く残るハンセン病への差別の実態を学習することを通して、人々の誤った見方や考え方に憤り、病気に対する差別を許さず、差別をなくすために行動しようとする気持ちを高める。

実施した内容

- ハンセン病問題学習の導入：意見交流し学習課題を見つける。
資料：DVD「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」
- ハンセン病に対する正しい認識をもつ。（グループ学習→発表）
 - ・ハンセン病の症状・ハンセン病の悲しい歴史・隔離政策・療養所の実態
 - ・元患者のおもい・現在 など
- ホテル宿泊拒否とその後送られた差別ハガキをもとに、ハンセン病への偏見や差別をなくそうとする気持ちを高める授業の実施
- 新聞を作成し、ハンセン病問題について伝える。

工夫した点

- ハンセン病について正しく理解するために、DVDや厚生労働省が出している資料を活用したこと

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

新潟水俣病の被害者に対する偏見や差別をなくすための学習（全 24 時間）

事業成果

価値・態度的側面：被差別者に共感し、差別に憤っている。

事業開始時：95.7%→事業終了間際：100%

- ・当事者の話を直接、または映像などで聞くことにより、被差別者のつらい気持ちに共感したと同時に、偏見や差別に対して憤り、何とかしたいと考えた。

技能的側面：自分の行動を見つめ直している。

事業開始時：82.6%→事業終了間際：90%

- ・たとえ病気になっても自分の好きなことを楽しんだり、人を恨まずに生きていたりする方々、そして、被差別者にずっと寄り添い、支える人の生き方についても学んだことで、「人を支えるという目標ができた」「正しく知ることが大事だし、被害者が傷つくようなことは絶対にしない」と考えた児童が多かった。

知識的側面：自他の人権を守るために何が大切かを理解している。

事業開始時：92.9%→事業終了間際：100%

- ・資料を工夫したり、調べ学習を行ったりしたことで、病気ハンセン病や新潟水俣病について正しく理解した。また、「知らないこと」「おそれの気持ち」などが差別を引き起こす要因になっていることについても考えることができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

新潟県

学校名

上越市立東本町小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

4 学年

時数等

1 時間

目標・人権教育のねらい

インターネット上に書き込まれた誹謗中傷や差別的な言葉が私たちの生活に与える影響について考えることを通して、差別や誹謗中傷を止めるために何ができるかを考え、行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

他人への誹謗中傷や差別などの書き込みを目にしたり、巻き込まれたりする可能性の高い子どもたちが、誹謗中傷や差別を食い止めるための実践行動力を身に付けさせるために、効果的な資料を自作し、ねらいに迫るような展開を工夫して授業を実施した。

工夫した点

- 資料の工夫 「ぼくの近所のラーメン屋」（自作資料）
「ぼく」がよく行くラーメン屋への悪質な書き込みを見た友達がラーメン屋の悪口を話している。実際に店に行っている「ぼく」や店長の気持ちを考えながら、インターネット上の情報に流されないことの大切さに気付ける内容。
- 実践行動力につながる展開の工夫
まず、ラーメン屋に対する批判的なコメントを提示し、行きたいかどうか問うことで、児童の素直な反応を引き出した。その後、インターネット上のコメントだけでなく、それを鵜呑みにしている友だちの行動や店長の気持ちを考えることで、インターネット上の差別の不当性に気付くようにした。そして、「ぼく」がどのように行動できるかを具体的に考え、話し合うことで今後の自分の行動についても考えを深めた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

学校保健委員会で、ゲーム・インターネット依存に関する講演会を実施した。その後、メディアコントロールについて家庭と連携して取り組んだ。

事業成果

価値・態度的側面：被差別者に共感し、差別に憤っている

事業開始時：88.2%→事業終了間際：94.2%

- ・「ぼく」のよく行くラーメン屋の店長を設定したことで、ネット上のコメントで人が傷つくということをとらえることができた。また、「店長を励ます」「友達に注意する」などの具体的な行動についても考えることができた。

技能的側面：自分の行動を見つめ直している

事業開始時：67.1%→事業終了間際：85.7%

- ・「自分が確かめていないことをすぐに信じないようにする」「人を傷つける情報ネット上で書き込みしたり、噂を広めたりしない」など、これからの自分の行動についても具体的に考えることができた。ネット利用については、個人差があったので、自分の行動を見つめ直すことが難しい児童への手立てが必要だった。

知識的側面：自他の人権を守るために何が大切かを理解している

事業実施時：84.2%→事業終了間際：94.2%

- ・「インターネット上の差別とこれまでの差別は何が違うか」という問いに対して、子どもたちは「すぐに広がる」「いつまでも残る」「誰が差別しているか分からない」などと考え、インターネットを介した差別の怖さに気付いた。
- ・「誰が書いたか分からない情報を信じて悪い噂を広めてはいけないこと」「相手の気持ちを考えてコメントすること」などの大切さを理解した。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

新潟県

学校名

上越市立東本町小学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

5 学年

時数等

3 時間

目標・人権教育のねらい

好きになる性が他の人と違うことに悩む「わたし」の気持ちや周りの人の言動について考えることを通して、自身の中に無意識の偏見があることに気付き、「そのひとらしさ」を大切に行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ① L G B T s 啓発団体の方を講師とした講演会（保護者も参加）
- ② 授業者自身が、当事者から学ぶ研修
- ③ 「多様な性のあり方を尊重するために」授業の実施（保護者、教職員も参加）

工夫した点

- 当事者に学ぶ講演会の事前学習を行うことで理解を深めた。
- 当事者の話を直接聞く機会を授業者が積極的に行って授業に臨んだ。
- 授業では、ねらいに迫るため「勇気を出して相談したら」という資料を自作した。「身近な人が当事者だった時に、本当に相手に対して偏見をもたずにかかわれるのか」を問い、自分や友達と対話することで、自分事として考えを深めた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

9月にLGBTs啓発団体の方を講師として、人権教育親子学習会を設定した。

事業成果

価値・態度的側面：被差別者に共感し、差別に憤っている。

事業開始時：95.7%→事業終了間際：100%

- ・友達から「同性を好きなんだ」と打ち明けられる場面、そして母親が「男性と結婚するのが当たり前」と考えている場面を取り上げた資料を自作した。自分、そして身近な人の問題として葛藤しながら深く考えることができた。

技能的側面：自分の行動を見つめ直している。

事業開始前：82.6%→事業終了間際：92.8%

- ・自分だったら友達に何と言うかについて、具体的に考えることができた。「おかしくないよ。好きになる人は自分の自由だよ」「好きになる人は、自分で決めていいんだよ」と考え、グループで対話した。

知識的側面：自他の人権を守るために何が大切かを理解している。

事業開始時92.9%→事業終了間際：96.9%

- ・親子学習会で、当事者の話を聞いたことで、人それぞれの性の在り方があるということを理解することができた。さらに、実際にお会いすることで自分の性を大切に活動していることを尊敬する気持ちが高まった。